
なんかざんねんなアーサー王といく聖杯戦争

未来組

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なんかざんねんなアーサー王といく聖杯戦争

【Nコード】

N5540Y

【作者名】

未来組

【あらすじ】

FATE/ZEROの世界にアーサー王に転生した元現代人（男性）を切嗣のサーヴァントとして召還させてみたオリキャラアーサー王の姿はアルトリアと同じです

プロローグ(前書き)

プロローグ

プロローグ

1人の青年がいた

1人の青年は神の手違いにより命を落としてしまったが、そのわびとして神が願いを叶えてくれる事になった

青年は生前アーサー王物語が好きだった為、すぐさまアーサー王に転生させてくれるように願う

願いの内容は以下の通りである

?アーサー王に転生させて

?記憶はそのまま

?エクスカリバーを最初から所持

?アヴァロンも当然所持

?身体能力は高め

神は青年の願いを叶えた。その結果、青年は未来知識やエクスカリバー等の力によって無事平穩に国を治め亡くなった

しかし本来のアーサー王物語に比べて何の面白みもない普通の話に結果になってしまった為、世界は仕方がなく、もう一つ英霊の座を用意してやる事にした

青年の生涯は何の問題もない物であったが誤算もあつた

そのうちの一つは何故かアーサー王が女であつた為自分も女になった事、あまりにも平凡過ぎた為人気がなく、もう1人のアーサー王にほとんど出番が喰われている事、それと他には…

「告げる…」

「この声は…？」

「…告げる。汝の身は我が下に、我が命運は汝の剣に。聖杯の寄るべに従い、この意、この理に従うならば応えよ…」

「ちよっ！？マジかよ？ソコは俺じゃないだろ！？」

「…誓いを此処に。我は常世総ての善と成る者、我は…」

「ヤバい！出番がないと思って油断していた！早く着替えねば！」

「…汝三大の言霊を纏う七天」

「騎士甲冑はどこですか！？このままではジャージ姿で召還されてしまう！？」

「抑止の輪より来たれ」

「あつた！早くジャージを脱がねば！？クソッ！ファスナーが邪魔して脱げない！？ヤバい！マジヤバいつて！」

「天秤の守り手よ！」

「ダメだ、もう間に合わない！？アアアアアアアアアアアア！？」

「嘘…？」

「まさか…」

「痛たたた、腰打った」

「コレが…」

「アーサー王!？」

プロローグ（後書き）

セイバーのステータス

マスター：衛宮切嗣

真名：なんかざんねんなアーサー王

性別：女性

属性：中立・中庸

筋力 B

耐久 B

敏捷 B

魔力 B

幸運 C

宝具 EX++

クラススキル

対魔力：A

騎乗：D 動物では馬しか乗れないが現代の交通手段である車やバイクは何故か乗りこなせる

保有スキル

直感：C あまり頼り過ぎると手痛いしっぺ返しをくらう

無我の境地：D いかなる状況下でも精神の安定をはかる能力。このランクだと突発的な出来事の場合あまり効果を発揮しない

寝取られ：A 自身が好意を抱いた相手は100%他者に寝取られる

宝具

確約された勝利と栄光とうざい剣

エクスカリバー

ランク：EX++

種別：いろんな意味で対人宝具

レンジ：

最大補足：3

さいきょうのけん、しようできればいかなるじょうきょうでもしよ
うりできる。でもうざい。そのいちげきはくうかんをたち、うんめ
いすらたちきることができるとか。それでもうざい。しよゆうしや
はくうかんでんいなどもできる。それでもやっぱりうざい。

約束された必中の剣 エクスカリバー

ランク：C

種別：対人宝具

レンジ：1

最大補足：1人

必ず相手に当たる剣。相手の本体が別の次元にあらうが、どんな物
理攻撃も意味をなさない能力を持っていようが絶対に当たる。しか
し相手がくらうダメージは海老が跳ねる程度のダメージになる。

???

???

1話（前書き）

できました

1話

開いた口がふさがらないとはこういう状況の事をいうのかと私は思った。とりあえず、私のマスターが動きを止めている間にジャージから騎士甲冑に着替えねばならないため、そそくさとその場で着替える

「…」
「…」

「なんでドレスなんですか、私はフルプレートが好きなのに…ブツ
ブツ」

「ヒソヒソ（ねえ、なんか騎士王（仮）が着替えだしたけどどうするの？）」

「ヒソヒソ（とりあえず様子をみよう）」

「ヒソヒソ（まさか…！女性の着替えを見続けるというの！）」

「ヒソヒソ（仕方ないじゃないか！君を1人残すわけにもいかない
だろう）」

「…／／／」

「えっと…確かこんな感じでしょうか、久しぶりにジャージから着替えたので苦労しました。久しぶりの娑婆の空気はオイシイデス（マズい…場の空気がグダグダだ…このままでは俺が『あなたが私のマスターか？』と言った所で『いえ、違います』と返されるのがオチだ。こうなったら仕方がない、一気に押し切るしかない！）」

「…」
「…」

「私はアーサー王、共に戦いましょう！マスター！」
「なん…だと…」
「うそ…」

そんな感じのグダグダな1日目であった。

以下スキット風に書いてみる

1、ざんねんなアーサー王の武器

切嗣「ところで君の宝具について確認したいんだが…」

ざんねんなセイバー「わかりました、私が主に使うのはコレですね」
アイリスフィール「これが…エクスカリパー…」

切嗣「これが宝具…」

ざんねんなセイバー「いえ、これはエクスカリパーです」

切嗣、アイリ「は？」

ざんねんなセイバー「いえ、ですからこれはエクスカリパーです」

切アイ「エクスカリパー？」

セイバー「エクスカリパー」

切アイ「エクスカリパー？」

セイバー「エクスカリパー」

切アイ「エクスカリパー？」

セイバー「エクスカリパー」

切アイ「……」

2、ざんねんなアーサー王の武器その2

アイ「ねえ、一つ気になる事があるんだけど質問いいかしら？」

セイバー「構いませんよ、アイリスフィール」

アイ「あなたの宝具のエクスカリバーなんだけど基本的にEXランクには+表記されない筈なのについているのはなんでかしら？」

セイバー「ああ、それですか…簡単な話です。私のエクスカリバーのランク+補正はエクスカリバーのうざさでできています」

アイ「うざさ？」

セイバー「はい、うざさです（俺、個人はウザカワイイとおもうんだが…）」

3、エクスカリバー

セイバー「ですからさっきから言っているではありませんか、無理なものは無理です！」

切「ふざけるな！」

アイ「どうしたの、二人とも。声が廊下まで響いていたわ」

セイバー「いえ、ただマスターが嫌がる私から無理やり…」

アイ「切…嗣…？」

切「勘違いしないでくれ、僕はただエクスカリバー発動時の魔力の消費量などを確認したかっただけさ」

セイバー「ですからそれは無理だとさっきから言っているではありませんか」

アイ「理由を聞いてもいいかしら」

セイバー「簡単な話ですが、エクスカリバー使用の条件をみたしていないからです」

切アイ「条件？」

セイバー「そうです」

切嗣「ならばさっさとその条件とやらを満たせばいいじゃないか、何か必要な物でもあるのか？」

セイバー「いえ、特に必要な物などはありませんが、満たせるかどうかはマスターしだいです」

切「何？」

セイバー「エクスカリバーが話すエクスカリバーの武勇伝と彼が語る守って貰いたい千の項目を3日間聴き続ける事です。途中、休憩時間を何回かとりませんが72時間ずっと彼の話聞き続けてもらいます」

切嗣「簡単じゃないか」

セイバー「ご飯を食べる時も、トイレの時も、娘との時間の時も、大事な打ち合わせの時も、お風呂の時も、夜の夫婦の営みの時も彼の話聴かなければならないんですよ？途中やめてしまったら最初からやり直しですし、その後も1日ごとに五時間にも及ぶ彼の武勇伝を聴かなければならないのですよ？」

切嗣「勝つためならしょうがない、たった3日たえるだけで勝利できるのなら臨むところだ」

セイバー「では始めますよ……確約された勝利と栄光とつぎい剣」

切嗣「くっ……凄い光だ……！」

エクスカリバー「むっ、久しぶりだなアーサー王？」

セイバー「ええ、久しぶりで「ヴァカめ！私にはやく飲み物を用意するのだアーサー王！」……ハア………さて行きましょうアイリスフィール、あとはあなた次第ですマスター」

アイ「え？ちよつと待ってセイバー！」

テクテクテクテクバタンッ

エクスカリバー「私の武勇伝が聞きたいのだな？私の伝説は……」

切嗣「（これはキツイ）」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5540y/>

なんかざんねんなアーサー王といく聖杯戦争

2011年11月21日20時06分発行